

## CATALYST

カタリスト

## 井村 雅代

日本シンクロナイズドスイミングチーム・ヘッドコーチ

シンクロ世界一の原動力、  
「叱り育て」のすすめ欠点に気づかせるため、  
ひたすら選手を罵倒する

「そんな顔はとても観客に見せるような表情やない。ブスや！」「これができなかったらシンクロ辞めたほうがまし！」「駄目なものは駄目！」「ええ加減にせえ！」……。

練習中、私は選手に向かって本気でボロクソに言います。時にはプライドをわざと傷つけるような言葉も平気で口にします。みな陰でワラ人形でも作っているんじゃないかな（笑）

なぜこんなに選手をけなし、罵倒するのか。彼女たちが憎いわけではありません。今の自分の未熟さを身をもって認識し、それを克服して次のステップに進んでもらいたいからこそ、なのです。だから、その後には必ずフォローが必要です。「表情をこうすればチャームングに見えるよ」って。

叱るタイミングは、その場で即、が原則です。人間誰しも 現行犯で注意されるとドキッとして心に残りますが、後になればなるほど、聞

く耳をもたないようになる。しつこいのも駄目。「昔のことを蒸し返された」と逆恨みでもされたら逆効果です。部下や後輩あるいは子どもをうまく叱れない大人が増えていますが、「教育しよう」という妙な気負いがあるから叱れないんです。私も傍目から見ると自信たっぷりに見えるでしょうが、正直、自信はないのです。ただ、人生あるいはシンクロの先輩として、「自分はこう思う」という提案を素直に選手にぶつけているだけです。

リーダーは「気配」を  
感じ取れる人間であれ

「あの選手いいなあ」と他のクラブの子をないものねだりするコーチがいますが、私は自分の目の前にいる子を一流の選手にどう料理するかが、腕のみせどころだと思っています。いま世界でトップレベルの立花美哉も以前はすごく下手で、才能といえば、脚の線がきれいなこと、努力を惜しまないこと、この2点しかありませんでした。選手の素質が悪いというコーチは、自分の育

てる能力がないことの言い訳にしているだけやと思いますよ。

水の中のことに限りません。私は、自分が何を認め、何に怒るか、これをわかりやすく選手たちに説きます。小さい子には、挨拶をしっかりさせますし、中高生には、私とは丁寧語で会話させ、もっと年上の選手には、お世話になった人へきちんと礼状を書かせる。「シンクロがいくら上達しても、人間性が上がったわけではない」といつも言っています。一芸に秀でている人が人間性に欠けていたら、かっこ悪さが倍増します。選手を絶対にそうさせたくないんです。

人間性という点では、リーダーや上司は、目には見えない「気配」がわかる人間であるべきです。課題に四苦八苦している選手、アドバイスをどこかうわの空で聞いている選手、そういう選手ひとりひとりの気配をさまざまな場面で察知し、対処しなければなりません。膝つき合わせた会話よりも、気配を察して、通りすがりにかけてあげる言葉のほうが千鈞の重みをもっているんですよ。（談）

## PROFILE いむら・まさよ

1950年大阪市生まれ。天理大学卒。78年から日本代表コーチとなり、以後5回のオリンピックに参加、多くのメダル獲得選手を育てた。2001年、第9回世界水泳選手権大会で、立花、武田のペアが日本のシンクロ界初の金メダルを獲得。空手、バントマイムなどを取り入れた大胆な表現手法と、齒に衣着せぬ「叱る」指導法に定評がある